



高志台

NAGAOKA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

学園だより

Vol.181
2014.3.19発行

CONTENTS

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 02 | 校長メッセージ | 12 | 佐藤國雄先生を偲んで |
| 03 | 卒業生・修了生に贈る言葉 | 13 | 卒業生・修了生表彰,進路状況 |
| 04-09 | さよなら高志台(卒業生・修了生) | 14-15 | 専攻科だより |
| 10-11 | さよなら高志台(留学生) | 16 | トピックス |
| 11-12 | さよなら高志台(退職教職員) | | |

★高志台 (こうしだい)

古代、新潟県を含む日本海側の一帯は、“このくに”(越の国・古志の国・高志の国)と呼ばれていました。

学生に高い志をもってほしいとの願いと歴史上の地名とを関連させて学校のある台地を「高志台(こうしだい)」と命名しました。



独立行政法人国立高等専門学校機構
長岡工業高等専門学校
Nagaoka National College of Technology

〒940-8532 新潟県長岡市西片貝町888 <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/>

卒業・修了おめでとう

校長 渡邊 和忠



長岡工業高等専門学校を卒業・修了される皆さん、おめでとう。教職員一同を代表して、心からお祝い申し上げます。併せて、この佳き日を迎えるまでの永きに渡って数々のご支援を下された保護者ならびに関係の皆様へ長岡高専として厚く御礼を申し上げます。

今年度、学科を卒業するのは、機械工学科 42 名、電気電子システム工学科 35 名、電子制御工学科 41 名、物質工学科 44 名、環境都市工学科 38 名の合計 200 名です。また、専攻科を修了するのは、電子機械システム工学専攻 15 名、物質工学専攻 4 名、環境都市工学専攻 9 名の合計 28 名です。卒業生のなかには留学生 8 名が含まれております。私たち教育に携わる者として、ご来賓、保護者、関係の方々と共に皆さんの卒業を祝福できることに無上の喜びを感じております。

皆さんはご存知でしょうか。今、高専に、また高専卒業生・修了生に、嘗てないほど産業界から、そして海外からも熱い期待が寄せられていることを。日本は、第二次大戦後、驚くべきスピードで復興を成し遂げ、丁度、50 年前の 1964 年に東京で開催されたオリンピックにおいて日本の復興の姿を世界に見せつけました。その後も高度経済成長が続き、やがてバブル期を迎え日本人は自信過剰に陥っていました。バブル崩壊後は、逆に日本人は自信をなくし、目標を見失ってしまいました。嘗て日本が世界をリードしてきた「ものづくり」においても日本の存在感は薄れつつあります。アベノミクス効果による円安の下ですら日本の輸出は伸び悩んでいます。バブル崩壊以降、今や「失われた 20 年」になってしまいました。将来への漠然とした不安を感じ、希望を見だしにくい 20 年でした。皆さんは、人々が夢と希望を持って働く、活力に満ちあふれる日本を知らずに育ってきました。今、政府はこのような状況からの脱却を目指して、産業競争力会議と教育再生実行会議を立ち上げて日本を立て直すための議論を進めています。この 2 つの会議において共に注目を集めているのが高専です。特に教育再生実行会議

では、高専の教育を参考にしながら日本の教育制度の抜本的な見直しを検討しています。海外でも日本の高専制度を導入しようとしている国々もあります。何故でしょう。それは、高専を卒業した皆さんの先輩方が高い志をもち、どんな時もたゆまぬ努力によって日本の産業を支えてきたことを、産業界や国が、良く分かっているからに他なりません。このことは、まさに高専教育の成果であり、皆さんが高専で学んだことを活かせば、社会で活躍できることの証でもあります。国の盛衰はまさに人にかかっています。人を育てるのは教育です。高専は、戦後、文部省（現在の文部科学省）が作った教育制度の中で最も成功した制度であると云われています。皆さんは、このような素晴らしい教育環境の下で学んだことに自信と誇りをもって下さい。日本は、高い志をもった皆さんが産業を立て直し、更には新たな産業を興してくれることを期待しています。日本を、そして世界を変えてくれることを待ち望んでいるのです。期待に応えようではありませんか。世の人々に夢と希望を与え、活力に満ちあふれる国を創ろうではありませんか。「世のため、人のため」は必ずや自らの幸せにつながることでしょう。

私たち教職員は、保護者や関係する方々と協力し、また、支援を頂きながら、皆さんが社会で活躍できるようにと、あらゆる努力をして参りました。ここ「高志台」から巣立っていく皆さんは、私たちの期待に応え、厳しい勉学に耐えて専門知識や技術を修得し、課外活動や社会活動等によって人間力を高めてきました。もう何も恐れることはありません。長岡高専は、これまでに多くの優秀な人材を輩出してきた実績があります。自らの力を信じて下さい。そして、これからも研鑽を積み、揺るぎない実力を蓄え、世の中に貢献して下さい。私たちは、皆さんと共に学び、苦勞を、そして喜びを分かち合い、強い絆を作ってきました。長岡高専の卒業生・修了生が元気で活躍してくれることは、長岡高専に関係する全ての者にとって大きな喜びであり、勇気と希望を与えてくれます。私たちは、卒業生・修了生の皆さんのこれからの人生が実り豊かで幸多きものとなるよう心から願い、いつも応援しています。

卒業生・修了生 おめでとう

卒業・修了おめでとう

後援会長 古田島 智裕



卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。長きにわたりサポートされてきた保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げますとともに、後援会の活動にご協力賜りましたことに感謝申し上げます。

さて、卒業後の皆さんの進路は進学や就職様々だと思いますが、いずれにしても環境が変わり、新たな人達との出会いがあります。その人達とどのような人間関係を構築出来るかが、今後の皆さんの人生に大きく影響すると思います。

そのためには、良好なコミュニケーションを維持することが重要です。まずは元気な挨拶。挨拶は子供の頃は平気で出来たのに、大人になるにつれてなかなか出来なくなっています。初対面の場合は、挨拶がコミュニケーションの入り口になるわけですから、特に大切ではないでしょうか。そして、報告・連絡・相談、いわゆる「ほうれんそう(報連・相)」です。会社生活では必須ですでお忘れなく。

また、メールでのコミュニケーションにも注意が必要です。文字だとなかなか伝わらないニュアンスがありますし、誤解を招くこともあります。電話でも同じようなことがありますので、可能であれば極力「Face to Face」で面と

向かって話すことが良いと思います。

外国人とのコミュニケーションも重要な案件です。グローバル社会を生き抜くため、冒頭お話ししたように企業の更なる海外進出に対応するため、語学力は大変重要です。

しかし、高専生の語学力が低いことは自他共に認める事実です。卒業後も語学勉強を継続することを是非おすすめします。(私の反省でもあります)

皆さんは、新しいスタートラインに立っています。今までのことにとらわれず、心機一転いろいろなことにチャレンジし、多くの経験を積み大きく成長する絶好の機会を得たと言えます。是非ともこのチャンスを生かして大きく羽ばたいて下さい。

東日本大震災から3年が経過しました。しかし、仮設住宅にはまだ多くの被災者の方々が、自宅の再建場所も定まらぬまま過ごされています。

福島第一原発の事故対応は、福島県内の除染も思うように進まず、廃炉の作業も何十年もの歳月を必要としており、今こそ技術立国日本の底力を見せる時だと思います。工学を学んだ皆さんにも、是非東北地方の復興に関わっていただけたらと思います。

皆さんの前途のご多幸を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

新たな旅立ちへ

同窓会長 伊藤 恒彦



今春それぞれの新たなステージへ旅立つ卒業生の皆さん、この日を待ち望まれたご家族の皆様にご心からお祝いを申し上げます。

今年の卒業生の皆さんは、東日本大震災を経験するとともに同時に発生した日本では経験した事無い重大な原発事故を見ることとなりましたが、このことは皆さんがこれから歩む人生にとって貴重な財産になると思います。

さて、今皆さんを取り巻く環境は、原発事故以来大きなテーマとなっている日本のエネルギー問題、頻繁に起こる自然災害に対する対策そして老朽化するインフラ再整備等々多くの課題が山積しています。そんな中、一昨年の政権交代以降新たな政権は「デフレからの脱却そして経済再生」を最優先に施策を展開し、ようやく「アベノミクス効果」が出現し始め、株価も上昇し日本の経済も明るい兆しが見えてきたところです。また、日本の科学・技術力は世界に誇れるものであり、国内外の多くの地域で技術者として活躍しており、これからも世界に誇れる多くの技術者が育つものと期待しています。

しかしながら、グローバル化する社会においては多くの変化が起きており、科学・技術の分野においても例外ではありません。その中で生き抜いて行くには自らが先んじて変わっていく必要があります。それには変化を的確に捉え、より早く変化に対応できる能力が求められるのではないのでしょうか。

皆さんはこれから専攻科、大学へ進学する方、就職され社会に出られる方と、それぞれの道に進むこととなりますが、自分で選択した新しい道に自信を持ち、迷いなく、悔いを残さぬよう歩んでいただきたいと思います。

新しい道では、いくつものハードルを越えて進むこととなりますが、高志台で学び、過ごした皆さんは、ハードルを越えるために必要な知識やコミュニケーション能力は十分備わっているものと考えています。

最後に、高志台から巣立つ皆さんが、自分の力を信じ新たなステージで高専卒業生として活躍されますことを期待すると共に確信しています。

皆さんの新たな旅立ちにあたり、『健全なる精神は健全なる身体に宿る』の言葉を贈り、お祝いの言葉とさせていただきます。



高専での5年間

吉原 健太

5年間の高専生活、仲間と過ごした日常や学校行事など良い思い出がたくさんあります。勉強で苦しめられた苦い思い出も、今となっては良い思い出となりました。たくさんの思い出があるということは、この高専生活のすべてにおいて本気で打ち込んで過ごしてきたという良い証明になるのではないのでしょうか。また、長い高専生活の中で、辛い思いをすることや、大きな壁に当たることなども当然のようにあります。そんな時支えてくれるのは、やはり共に過ごしてきた仲間ですね。彼らにはたくさん助けられ、成長させてもらいました。皆とバラバラになることはとても想像ができません。そのくらい最高の仲間と出会え、共に過ごせたことに感謝します。

長岡高専に入学してから早5年、長いようで短い年月だったと感じます。卒業後、私は就職の進路を選びました。これまでお世話になったクラスの皆、先生方、そして家族への感謝の気持ちを胸に、立派な社会人となるよう努力していきます。また、この場を借りて言わせてください。ありがとうございます。



お世話になった方々・掛け替えのない仲間達へ

大川 太基

期待と不安に胸を踊らせながら入学したと思えば、あっという間に5年、そして卒業間近となってしまいました。この5年は辛く苦しい事や楽しく笑い合った事など非常に充実した日々で、それだけにこの5年がとても短く感じます。

入学式、生徒の私達は皆ぎこちない感じでしたが合宿研修で打ち解ける事ができ、遠足では他愛もないことで笑っていたことを今でも鮮明に思い出すことができます。高専で初めての定期テスト、勉強会と称して集まり、勉強半分遊び半分ででしたがそれぞれいい点数だったのもいい思い出です。

高専生活はとても多くの人達に支えられてきた5年間だと、この歳になってようやくわかったような気がします。入学当初、不安と緊張を抱えた自分の背中を押してくれた家族。日々の生活や学業で苦楽を共にした親友達。将来の進路で悩んでいる自分にアドバイスをしてくださった先生方。今の自分が胸をはって長岡高専を卒業できるのは周りの皆さんのおかげだと実感できます。家族に、そして機械工学科5年のみんな、先生方、先輩方、本当にありがとうございました。



最後のクラス担任

1～2学年クラス担任 相原 勝

僕は君たちが入学した時に、僕自身の教員生活の最後のクラス担任になるのだなあと、ちょっとおセンチになりました。そして、いいクラスだったらいいのになあ、とひそかに思いました。まことに勝手な願いだったのですが、それがほんとにその願いどおりでした。とても楽しいクラスでした。

何より、みんな実に素直な子供たちでした。1年生の時に教室にずっとかざってあった、入学したての5月の遠足の時の、みんなの笑顔の写真そのままでした。5年後の今、みんなそれなりに成長しましたが、素直さはそのままです。それが僕はほんとうにうれしい。

これからみんな、それぞれの道を歩んでゆく。たぶん思い通りにならないことが多いでしょう。でも、「雨ニモマケズ、風ニモマケズ」、力強く進んで行ってほしい、そう僕は、心から願っています。



「周りに与える人に」

3～5学年クラス担任 池田 富士雄

3年前の4月、担任としてクラスで初めて皆さんを前に、緊張を隠しつつ挨拶したことがつい最近のことのように思い出されます。普段の付き合いからクラスでの活動や行事などを通じて、喜びや苦しみを共有できて本当に幸せでした。どうもありがとう。

新たな世界へ羽ばたく皆さんへ、私がとても共感を覚えた、ある小説の主人公のセリフを（言葉は少し変えて）贈ります。

「与えられた課題に全力を尽くす、それが高専生だろ。自分を必要とされる場所において、そこで活躍するのが一番幸せなんだ。場所の大小なんて関係ない。知名度も。俺達が追求すべきは看板じゃなくて、中身だ」

高専で学んだことを誇りに、周りに何かを与え、周りから必要とされる人になってくれることを願っています。道に迷った時に限らず、気が向いたらいつでも気軽に高専を訪ねて下さい。



「高専生活を振り返って」

関 真之介

私が長岡高専に入学して5年、色々なことがありました。入学式の日「この学校で5年間もやっていけるのか。」と不安になったことを覚えています。しかし、学校や寮で生活をし、友人ができたことでその不安は無くなりました。一緒に学校行事に参加したり、夜遅くまで寮でくだらない話をしたりしたことはよい思い出です。

この5年間、楽しいことや苦しいこと、多くの経験をしてきました。特に心に残っていることは、5年生の時の学園祭で学科対抗演劇の監督を務めたことです。監督として皆を引っ張っていくことがうまくできず、メンバーに助けてもらってばかりでした。多くの人に迷惑と心配ばかりかけてしまい、反省の毎日だったことを覚えています。それでも、どうにか本番を迎えることができ、演劇をやり遂げることができた時は、ほっとすると同時に大きな達成感を得ることができました。

これから新生活が始まります。この5年間に得た素晴らしい経験が無駄にすることの無いように、日々成長していきたいと思います。



「思い出と感謝」

佐藤 拓哉

私が高専に入学してから早くも5年もの月日が経ち卒業も間近です。高専では寮生活や学生会での行事の運営など中学生の頃には考えもしなかった経験ができました。そんな経験を通して自分も少しは成長できたのでしょうか…(たぶん成長してない)。こんな私が無事(?)に高専生活を過ごせたのは、やはり寮生やクラスの仲間、先輩や後輩、先生方、あと過去問に支えてもらったおかげだと思います。なかでも、一緒に馬鹿なことに付き合ってくれた寮生の人々には感謝しています。最初は集団生活に不安もありましたが、本当に寮に入って良かったと思います。寮生の人々、来年も白い粉祭りやろう。

こんな馬鹿な私ですが今年の春から長岡技術科学大学に進学することになりました。私のこの5年間の意味のある5年間とするためにも、進学しても高専で学んだこと、経験したことを活かしていけるよう頑張ります。最後になりますが、お世話になった家族、寮やクラスの皆さん、先輩方、先生方、本当にありがとうございました。



皆さん卒業おめでとう。

1～2学年クラス担任 自見 壽史

私は、皆さんより一足先に高専を卒業し(卒業するのに16年間もかかりましたが)、今は故郷の松戸市で元気に暮らしています。高専は、長岡での生活とともに思い出になりつつあります。今頃、長岡は雪に覆われていて、寒いんでしょうね。

高専では、君たちを含めて四つのクラスを1,2年時に担任しましたが、君たちが、文句なしに1番よかったです。まず、クラス全体、とても勉強ができた。また、諸君の中には悪いことをする者もなく、不快な経験もほとんど無かった。楽しく担任をさせていただきました。感謝しています。

君たちが入学した頃は、まだ日本の電機業界は世界最強でしたが、5年間で、あっという間に雲行きが怪しくなっていました。君たちの力で、また日本の電機業界に栄光を取り戻してください。期待しています。



卒業する諸君へ

3～5学年クラス担任 長部 恵一

卒業おめでとうございます。

まず就職する諸君へメッセージを送ります。社会人になることは経済的に自立することですが、理不尽なことや無茶なこともたくさんあると思います。それに負けず自分で収入を得ていることに誇りを持ちながら努力してください。

次に進学する諸君へメッセージを送ります。高専卒業後も勉学を続ける諸君は高い能力を身につけることと思います。進学する諸君もいずれ社会人になり働くことを念頭に置いて勉学と研究に励んでください。

また、進路に関係なく伝えたいのですが、諸君の新しい環境では高専の学校生活とは大きく異なる部分があります。今までの体験にとらわれることなく新しい価値観を受け入れてください。決して頑迷にならず、上司、同僚、教員、同級生の助言を聞き入れることが大切だと思います。

最後に諸君が幸多き人生を送ることを願っています。



5年間を振り返って

松戸 裕之

早いもので、気付けばもう卒業の時期となりました。振り返ると沢山の思い出が溢れてきて、5年間で多くの貴重な経験をさせてもらえた事を実感します。正直な話、私は成績も良くなければ部活動で結果を出したわけでも無く、これといって誇れるものはありませんでした。

そんな私が本気で何かに打ち込めたのは4年生になってからの事です。なんとなく学園祭の学科対抗演劇に参加して気分の高揚に驚きました。ああ、これが青春かと(笑)。5年になっても参加させてもらい、役者賞を頂いた事、そしてあのメンバーで優勝できた事は数少ない私の自慢です。

学祭演劇以外にも言える事ですが、私は本当に良い人たちに囲まれていました。お世話になった先生方、そしてクラスの皆。個性的なメンバーが集まっていて、何気無い授業で笑いが起こったり、記憶に残る名言が生まれたりする毎日が本当に楽しかったです。

卒業後はそれぞれの道へと分かれて行きますが、またこの日々を語り合える日が来る事を楽しみにしています！



卒業

笠輪 寛明

私は5年前、この長岡高専に入学しました。入学当時は長いように思った5年間も、過ごしてみればあっという間で、今年、卒業を迎えます。

入学してからは、低学年の頃は毎日8限までの授業、学年が上がってもレポートや進路、卒業研究など、毎日が忙しく大変な5年間でした。そんな中で、私が大切にしてきたことがあります。それは友人関係です。どこかで、高専で作上げた人脈は一生にわたって重要な財産になる、と聞いたことがあります。この言葉の詳しい意味は今の私には分かりませんが、高専での5年間をここまで乗り越えてこれたのは、一緒に頑張った友人たちのおかげだと思います。

私は、春から長岡技術科学大学に通います。まだもう少し市内での生活が続くようですが、そこでは今よりもっと様々なところから来た人と出会えるでしょう。高専でそうであったように、そこでの出会い一つ一つも大切にしていきたいと思っています。最後に、この長岡高専を、今の電子制御工学科の皆さんと卒業できることを、嬉しく思います。



また会う日まで

1～2学年クラス担任 田中 真由美

ご卒業おめでとうございます。皆さんにお別れの言葉を伝えた日から半年の間、卒業研究に取り組み、さらに成長されたことと思います。その様子を見るができず残念でしたが、一生懸命に取り組む姿は容易に想像することができました。皆さんは勉強や課外活動に真剣に取り組んでいましたね。与えられた課題をやり遂げるだけでなく、工夫したり改善したりしようと努力もしていました。皆さんの素直さ、向上心、そして創造性を、私はとても素晴らしいと思っていました。皆さんの長い人生の中ではほんの一瞬ですが、心身共に大きく成長する時期に、担任として関わったことをとても嬉しく、誇りに感じています。

いつかまた、さらに大人になった皆さんと会える日を楽しみにしています。それまでどうぞお元気で。輝かしい未来を心よりお祈りいたします。



希望は不安を駆逐する

3～5学年クラス担任 太刀川 信一

ご卒業おめでとうございます。これまでの高専での毎日の授業、遠足、体育祭、文化祭、見学旅行、そして、卒研等、いろいろなことが心に刻まれていると思います。そして、なによりも大切なことは、いっしょにすごしてきた仲間との友情、教職員やご両親への感謝の気持ちです。一生の宝ものです。そんな君たちに送ることばは、「希望は不安を駆逐する」です。これからの長い人生を有意義にそして楽しくすごすにはどうしたらいいのでしょうか。答えは簡単です。楽しいことを考えればいいのです。人生に悩みや不安はつきものです。しかし、それを希望によって駆逐すればいいのです。希望はこれからのことですから、なんとでも考えられます。さあ、未来に向かって一歩ずつ歩んでいきましょう。



「1806 日」

小林 丈祥

1年から5年で作り上げた学祭演劇、念願が叶った全国高専出場、5年目にやっと優勝できた球技大会。ああ、物質5年は素晴らしいクラスだった。ああ、とても楽しい学校生活だった。

しかし、私の5年間は大きな行事の思い出だけで語っていいのだろうか？違う、小さい思い出もぎっしりたくさんあるはずだ！よく思い出すのだ！ガリガリ君を当てたのは何回だ？誤って試験場経由に乗ったのはいつだ？…よく覚えていないのです。それはきっと大きな思い出に比べ華やかさや盛り上がりには欠けるからです。何気ない日々というのは平和な代わりに印象が薄いのかも。でも「昨日が今日でも今日が明日でも明日が昨日でもまるで変わらぬ暮らし」ではないだろう。よく見れば毎日たくさんの変化があるはず。昨日は今日の、今日は明日の糧になるように生きていきたい。

私はたくさんの思い出と共に旅立ちます。思い出くれた同級生、後輩、先輩、先生方、ありがとう、さようなら！もう一回ありがとう！また会う日まで！



さんくすでした！

徳山 遥香

5年生になって無事大学も決まり、とうとう最後の行事も終わって、最近この5年間の高専生活を振り返る機会が多くなりました。

私が大事だと感じたことは、生活リズムを掴むことと、せっかく高専にいるからには自分からなにかにチャレンジする！ということです。低学年のとき、慣れない専門の勉強や寮生活が嫌で仕方なく、もう学校辞めよう！と何度も考えていました。そんな中、学習チューターや寮長を経験したことで上手に時間を使うことができるようになり、以前の私はなんて甘ちゃんだっただろうと感じました。この2つの経験はいろいろな場面で私の強みになり、自分の思考を変えることができた大きな出来事です。

高専ではたくさんの友達・先生方にお世話になりました。来年度からは、「ばんくん」と呼ばれなくなるのが非常に悲しいです。今は高専に入学して本当によかったという思いでいっぱいです。この長岡という地を離れるのはとても寂しいですが、5年間どうもありがとうございました！



卒業おめでとう

1～2学年クラス担任 野澤 武司

皆さんが入学してもう5年経ったのですね。5年前、長岡高専に入学した頃の皆さんは、中学とは違う勉強や新しい人間関係など、今までと違う環境に慣れるのに大変だったと思います。それから5年間、皆さんはそれらを着実に1つ1つこなしていき、遠足や学園祭では自分たちで決めて自分たちで行うなど自主性の高いところも見せてもらいました。そんな風にしっかりした皆さんだからこそ、5年間の月日の中で、楽しい経験やうれしい経験以外に、つらい経験、悲しい経験もあったと思いますが、それらを乗り越えて、卒業を迎えられたのだと思います。卒業後の新しい世界でもそのような面を持ち続けて頑張ってください。そのときに長岡高専で学んだことは大いに助けとなると思います。今度会ったときに更に立派に成長した姿を見るのを楽しみにしています。



挑戦しよう！

3～5学年クラス担任 赤澤 真一

卒業おめでとう！皆さんのクラスは私の記念すべき初担任クラスでした。振り返ればとても楽しい思い出が。3年生の学園祭は本当に楽しませてもらいました。4年生の見学旅行。大阪なのになぜか行きつけのラーメン屋に連れて行ったり。5年生は体育祭で最後に爆発したかったですね。様々な記憶が今でも鮮やかに蘇ります。皆さんの学年が上がる毎に関わる時間が少なくなり、5年生になるとほとんど手を離れ寂しく感じたものです。ほんまやで！これから皆さんは新天地へと旅立つわけですが、私も大きな決断をしました。念願の留学です。学生の事を考えると中々踏み切れませんでしたが、もしも採択されたならそれも縁。さらにパワーアップして研究・教育にビシバシフィードバックしたい！遅すぎないチャレンジはありません！皆さんも「迷ったらチャレンジ！」同窓会呼んでね。



「さようなら高志台」 5年間を振り返って

小川 朝水

私は来年から就職し、高専生活が最後の学生生活となりました。毎日のように会えたクラスの人々と別れるのはさびしいですが、新しい生活も楽しみです。

5年間という長い時間を振り返ると私はクラスや友達に恵まれました。私は消極的で、最初は部活もしないで授業が終わるとすぐに家に帰っていました。そんな私を友達が部活動に誘ってくれたり、サプライズで誕生日を祝ってくれたりしました。とても嬉しかったのを覚えています。また、3年次からの留学生は初めての海外の友達でした。日本人とは違う面白い価値観を持っていました。留学生と一緒に勉強できるのも高専ならではの思い出だと思います。遠足や体育祭、見学旅行などの特別な行事や他にも様々な行事のなかでクラスも仲良くなれました。特に最後のクラスマッチではクラスみんなで協力した結果、大縄で優勝できとても良い思い出になりました。

この5年間、先生方をはじめ、たくさんの人に支えてもらいました。私にとって、とても成長できた5年間でした。ありがとうございました。



この胸いっぱい感謝を

数井 佑丞

5年間の高専生活を振り返り、私に関わってくれた方々にはただひたすら感謝の気持ちで一杯です。教員の方々には日々の授業と併せて、時間を問わず質問に対して丁寧な解答をして頂き、学問に対して理解を深めることが出来ました。

また部活動では、スポーツを通して心身ともに鍛えられただけでなく、人として大切なことを沢山教わりました。そしてクラスメイトからは、豊かな学校生活とかけがえのない思い出をもらいました。私は一人ではとても力のない人間です。今までの生活を思い返すと、常に誰かに支えてもらっていたと思います。色々な人に支えられながら色々な経験をさせてもらったお陰で、私は大切なことを沢山学ぶことが出来ました。

5年間の高専生活は、私にとって大きな財産です。これを糧として、進学した先でもさらに自分を磨いていきたいと思っています。

最後にこの5年間でお世話になった先生方、先輩方、後輩たち、同級生のみんな、そして最も近くで支えてくれた家族に、この胸いっぱいの感謝を送ります。ありがとうございました。



高専生活は楽しかった？ 思い出はたくさんできた？

1～2学年クラス担任 高橋 剛

入学当初から2年生が終わるまで、皆さんは「先生が担任で良かった」と幾度も言ってくれました。その言葉が私のやる気を一気に上げてくれて、おかげで楽しく幸せな担任期間でした。このまま卒業まで担任でいたいと当時思ったのですが仕方ありません。(なんて達成感の少ない仕事だろう。)でも一方で5年生の時の授業態度は酷かった。(もちろん態度良く参加してくれた学生もたくさんいます。)5年間、勉強を要領だけでのりきっている人がたくさんいるようにも見えた。それらをどうにかしたいと思ったのは、私の価値観の押しつけだったかも知れない。まあ何はともあれ卒業です。長い高専生活での成績・宿題・勉強・人間関係のシガラミなどから解放されて、新しい世界が若い君達を待っているわけです。私はそんな君達が羨ましいな。おめでとう。



「新たな人生へのスタート」

3～5学年クラス担任 村上 祐貴

卒業おめでとう。3年間、色々な事がありましたが、いつもサポートしてくれて本当にありがとう。卒業は英語で「graduation」が一般的ですが、「graduation」以外にも、卒業を表す言葉として「commencement」というものがあります。「commencement」の本来の意味は「始まり」です。これから皆さんは、高専を旅立つと同時に、次のゴールに向かって、一歩踏み出します。先の見えない道を歩み続けることは不安かもしれませんが、この5年間で培ったこと、ともに過ごしてきた仲間は、皆さんがこれから新たな道を進む上での地図となり、先を照らす光にもなると思います。また、道は進むだけでなく、戻ることもできます。道に迷ったら出発地の長岡高専に立ち寄って下さい。そして、新たなゴールへ到着したら、長岡高専に出向いてください。我々は、灯台として皆さんを照らし続けます。さあ出発しよう。



7年間

電子機械システム工学専攻（機械工学科出身）

増田 健太

長岡高専に入学し、7年間の経ち、入学当初は15歳だった自分も22歳になりました。この7年間の感じ方は人それぞれだと思いますが、個人的には長く感じました。特に前半の5年間は早く、後半の2年間は長く感じました。このような感覚の専攻科生は他にもいるんじゃないかと思います。

入学するきっかけとなったのは、中学3年のときに参加したオープンキャンパスでした。このオープンキャンパスが自分の人生の中での大きな分岐点であったと思います。その後、第一希望の機械工学科に合格、さらに専攻科に進学し、ザ・長岡高専生というルートを歩んできました（笑）。

しかし、この長く感じた高専生活も終わりに近づき、卒業を意識する季節となりました。最近では、今まで当たり前と思っていたものが非常に名残惜しく感じます。最後になりましたが、先生方、機械工学科と専攻科の仲間には大変お世話になりました、感謝してもしきれません。この大切な時間を長岡高専で過ごすことができ、本当に幸でした！



専攻科2年間

電子機械システム工学専攻（電気電子システム工学科出身）

梅澤 将秀

専攻科での2年間の振り返って1番に思い浮かぶのは研究室の自分の席から見える風景です。研究に詰まった際に見上げた天井、ふとした時に見ていた窓からの風景と様々なものが思い出されます。そして、それに付随するようにその席で行ってきた研究内容が次々と思い出されます。

本科5年生では大きな枠でしか捉えられなかったその研究内容もこの2年間で自分なりに深い部分まで考えることができました。更に深い部分まで研鑽していきたい思いが多くありますが、今回修了という区切りをもって今の研究内容とは一旦離れることとなります。しかし、今まで行ってきたことを忘れるのではなくこれからの糧として日々自分を高めていきたいと思っています。最後になりましたが、これまでの高専生活において多くのご指導をしていただきました指導教員をはじめとする教職員の方々への感謝を申し上げ専攻科2年間の締めさせていただきます。ありがとうございました。



さよなら専攻科

電子機械システム工学専攻（電子制御工学科出身）

田村 英継

時間の流れは早いもので、専攻科修了が目前に控える時期となりました。専攻科で過ごした2年間は、学業より研究に取り組んでいた時間が多かったように思います。

私の研究テーマであった有機トランジスタは、私の専攻

科入学と同時に立ち上げとなりました。そして、立ち上げてから今までの振り返ると、様々なことがあったことを思い出します。例えば、専攻科1年での中間発表では、先生方の投票により優秀ポスター賞を受賞し、喜んだ記憶があります。そこに至るまでには指導教員並びに研究室の同期との議論や協力があったことは言うまでもありません。一方、専攻科2年での特別研究発表会では、優秀発表賞を受賞できず、悔しい結果となりました。しかし、ここでの反省をいかして、今後更に自分を磨いていきたいと思っています。

最後に、本科から専攻科までの7年間を通して、多くの先生方にお世話になりました。この場を借りまして、感謝を申し上げます。



有意義だった高専生活

物質工学専攻（物質工学科出身）

栗飯原 直也

入学当初は高専の勉強に全く興味が持てず一年間休学までした自分がまさか専攻科を修了するとは夢にも思ってもいませんでした。思い返せば高専生活の中で多くの失敗と成功を繰り返し現在に至りますが、その全てがこれからの人生を切り開くための糧になると思っています。

特に本科、専攻科を通じて行った研究活動においては学科の枠を超えて多くの人々との出会いがあり、恵まれた研究環境の中で非常に有意義な時間を過ごすことができました。本科では先輩方から実験操作を一から教えて頂き、時には議論を交わしながら研究を遂行していき、その生活が心地よかったことから専攻科進学を決めました。専攻科へ進学してからその姿勢は変わらず、後輩達と協力しながら精力的に実験を行っていき、充実した日々を過ごせました。

最後に研究室で3年半の間指導して下さった荒木秀明先生をはじめ、在校生、教職員の方々へこの場をお借りして心から感謝します。



高専生活を振り返って

環境都市工学専攻（環境都市工学科出身）

小野塚 健悟

本科と専攻科を合わせて計7年間長岡高専に在籍しました。思い返せばあっという間の7年間で、思い出がたくさん詰まった学生生活でありました。多くの仲間たちは本科で卒業しましたが、今でもクラス会などお互いの近況を話せる仲間でありました。専攻科の仲間たちとは更に2年間の過ごし、多くのことで騒ぎ、多くのことで助けってもらったと感じています。この友人たちとの繋がりが高専生活で得た一番の宝です。

高専は専門知識を早い段階から学べ、多くの仲間たちと協力し、また他の学校とは違った面白い学校だと感じます。本当に長岡高専の学生になれたことによかったと思います。最後に3年間お世話になった指導教員や学科内外の教員、技術職員の方々には本当にお世話になったと感じています。高専生活内で関わった教職員の方々、本当にありがとうございました。



長岡さようなら

機械工学科 5年

モハマド シャリル ビン ラムリ

知らないうちにもう3年間長岡高専で留学していました。その時にいろいろなことがたくさん起こりました。はじめて長岡に来た時に長岡の寒さに驚きました。雪がやばくて骨までに寒いとかんじました。しかしもう3年間長岡に住んでいて、だんだん寒さに慣れて来ました。はじめて来たばかりで友達がいなくて、寮も出てしまっ、留年になってしまいました。しかし次の年からいろいろ頑張って生活が平気になってきました。5年生になったら、吉野先生の研究室に入りました。先生と研究室の友達がやさしく、新しい友達を作りました。いつも一緒に笑ったり、遊んだりしているので、とても幸せです。最後にいろいろありがとうございました。お世話になりました。



皆さんまたね!

機械工学科 5年

ゲン トゥン ロン

高専に入ってからもうそろそろ3年間になりました。この3年間は私にとって一番大事で絶対に忘られない時間です。長岡高専に入学した初めての私費留学生なので分からないことも多いし悩んだこともたくさんありました。ちなみに勉強のことで生活のことを維持することができるようアルバイトをしなければならませんでした。本当に大変でしたが、皆さんのおかげで今まで行けました。勉強のことでのみならずいい友達ができるし充実した生活も送りました。本当に心から感謝しています。これから他の所に行きますが高専の皆さん絶対に忘れません。皆さんも私を忘れないで下さいね。都合が良かったらまた会いましょう。



TERIMA KASIH

機械工学科 5年

シャルル ジャズワン ビン サムソル パーリ

長岡高専に編入してから気づかないうちにもう3年間たちました。時間って早いものですね。最初日本に来た時はどんな生活するのかちょっと心配していました。しかし、日本人の優しさでその心配な気持ちを少しずつなくして、いい生活ができました。高専でいろんな友達ができて本当に良かったと思います。皆優しく、いい友達です。先生方も3年間いろんなことを教えてくれて本当に心から感謝しています。もう3年間長岡で生活しているから長岡が好きになりました。雪がいっぱい積もっていますが、四季がよく見えるところです。この3年間高専で経

験したことは死ぬまでも忘れないです。

皆3年間お世話になりました。ありがとうございました。Terima Kasih. また会いましょう。



有難うございました

電気電子システム工学科 5年

ラーソンタヌー トンパサー

私が長岡工業高等専門学校に編入して、あっという間にもう3年が過ぎていました。この3年間を振り返ると、楽しいこと、苦しいこと、色々な思い出が沢山ありましたが、私にとっては掛け替えの無い貴重な時間でした。長岡高専に入ったばかりとき、日本語が出来なかったもので、最初の授業に先生の教えることがさっぱり分かりませんでした。本当に辛くて心配でした。しかし、担任の長部先生やチューターの田村さんや友達などが熱心に教えたり鞭撻したりしてくれたので、最後まで乗り越えることが出来ました。本当に大変なお世話になりました。最後になりますが、私に卒研研究を親切に指導してくださった樺澤先生と同じ研究室の友達の皆さん、本当に心から有難うございました。



TERIMA KASIH SEMUA —みんなありがとう!

物質工学科 5年

ク アズイン ビンティ ク アズミ

そろそろ「さようなら」の言葉を言わなければなりませんので、悲しいですね。校長先生、先生方、長岡高専の皆様、寮務担当の皆様、クラスの仲間たち(MB5 ROCKS!) 3年間大変お世話になりました。悩み時でも、先生方特に担任の赤澤先生と丸山先生、先輩たち、チューターたちが親切に助けてくれて、色々な難関を切り抜きました。そして、勉強だけでなく日本の様々な文化を体験したり、日本の友達もできたり、本当に良かったと思います。日本の四季がはっきりしているので私も新しい経験ができました。春は花見、夏は長岡大花火、秋は紅葉、冬はスノーボードをしたりして、楽しかったです。これからそれぞれの道に分かれますが、思い出と友情は永遠に続きます。一緒に頑張りましょう! 心から感謝を申し上げます。



さよなら My Second House

物質工学科 5年

マーサ グラビ

あれ?もう卒業だ! 長いと思っていた3年間は数秒のこのように感じる。毎日レポ、意味の分からない漢字、早口の先生たちの授業...しかし、どれも良

思い出だ。また、楽しかったのは学園祭だ。イランには学園祭がない。特に、演劇で毎日仲間と遅くまで楽しみながら作業することを、日本に来る前、ドラマで見ていて憧れていた。それが叶ったことがとてもうれしかった。そして、この3年間で、一生物の友達ができ、よかった。また、素晴らしい先生たちに巡り会い、勉強の楽しさがわかった。そして、自分が1番行ききたかった農工大に、みんなのサポートで合格することができた。後輩たちに、「Nothing is impossible」という言葉を送りたい。「できないことは無い!」 Good Luck!



チャオ 長岡高専

環境都市工学科 5年

クア ビン ウエイ

時が経つのは早いもので、僕はもう長岡高専を卒業しようとしています。3年間って長くないが、短くもない。この3年間では、高志台のおかげで、色々な体験や思い出ができました。

花見、花火、研修旅行、スキー研修、ホームスティなど、こんな貴重な経験が長岡高専に来てから体験できて、本当に良かったと思います。また、バドミントン部に入ることにより、たくさんの友達ができ、バドミントンしながら交流でき、すごく良い選択でした。

最後に、先生方やクラスの友達など、大変お世話になりました! この3年間非常にいい経験になりました!

僕は、これからも、自分の生きる価値を探し続けます。もし機会があれば、その道の先で会いましょう。SEE YOU WHEN I SEE YOU ◎



さよなら高志台

環境都市工学科 5年

ウォン カー イー

私が長岡高専に入学してから早くも3年が経とうとしています。自分が県外への進学という道を選び、新しい環境に期待していますが、高専の皆さんと毎日当たり前のように合うことが出来なくなるのが寂しく感じます。この3年間で振り返ると、勉強や研究など大変な事もたくさんありましたが、それ以上にこのクラスで参加してきた学校行事、笑いが絶えない日々など楽しい思い出がたくさんありました。環境都市工学科で学んだ知識は今後の人生でとても役立っていくと思っています。また、いつもそばにいてくれた仲間がいるからこそ、とても充実した高専生活を過ごせました。私の高専生活に関わってくれた皆さんへ深く感謝し、お礼を申し上げます。3年間本当にありがとうございました!

今年度末で退職される先生



あれから 38 年と6ヶ月

機械工学科 山田 隆一

昭和 50 年 10 月、石油ショックのあおりを受けて内定取消となった私を長岡高専が拾ってくれました。あれから 38 年と6ヶ月が経過しようとしています。この間に校長先生が8人替わりしました。さすがに長かったなと思います。

勤務し初めの頃は学校全体がのんびりした雰囲気、一生懸命研究する教員はごくわずか、そういう私は部活動の指導と称して学生と一緒にテニスを楽しんでいました。そんな雰囲気が徐々に変わっていったのは専科大学の話が出てきた頃からでしょうか。これからは博士の学位が必要ということで、のんびりしていた私も遅まきながら研究に力を入れるようになり、平成8年ようやく学位を取得することができました。その後は休む間もなく、学級担任、寮務主事補、学科長、学級担任、教務主事、総務主事ととても忙しい日々を送り今日に至っています。

思い返せば頑張っているとき、苦しいときはいつも側に支援してくれる人たちがいました。家族、友人、仲間、先輩、後輩、学生といった周囲の人たちにとても恵まれた勤務生活でした。紙面を借りてお世話になった方々にお礼を申し上げます。

再雇用で引き続き勤務致しますので、本当に高志台を去る日までもう少し皆さんの仲間であわせてください。



長かった教務関係

物質工学科 栗野 一志

「とうとう」というか「やっと」というか、退職の時が来た。振り返ってみると教務主事(2年)、専攻科長(4)、教務主事補(4)、専攻科委員(専攻科小委員会を含め6)、教務委員(6)など教務関係延べ22年(在職期間の半分以上)、科主任(2)、担任(7)の他、学科改組・専攻科・地域交流室(地域共同テクノセンターの前身)などの準備委員として学校の重要施策の立ち上げにも長年関わってきた。

特に思い出に残るのは「推薦制度の導入」(教務主事補)、「進級基準の改正」・「セメスター制の導入」・「学修単位の導入」(教務主事)、「JABEE 認定」(専攻科長)などであり、他高専の教務主事・専攻科長からのアドバイスと本校教職員のご協力を頂きなんとか乗り切ってきた。ここに深く感謝申し上げます。

ここ数年は忙しい校務から離れ、学生の「基礎学力の

向上」を目指し、講義と有機化学問題集の作成に力を注いできた。この3月にはやっと上梓できる予定である。

退職してもあと1～2年は本校にお世話になりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



長岡高専の21年間

環境都市工学科 塩野 計司

私が長岡高専に採用されたのは平成6年の4月のことだった。私はまだ43歳で、今にして思えば、知力はすでに怪しくなり始めていたけれど、気力・体力はまだ大丈夫な水準にあった（と思いたい）。

それからの21年という、長いとも短いともいえそうな時間のあいだには、うれしいことやうれしいこともたくさんあったし、そうではないことも少しはあった。

そんな21年のあいだに、退職する多くの先輩が「大過なく過ごせたことを感謝する」という意味の挨拶をされるのを聞いて、そういう挨拶も大人っぽくてよいけれど、自分のときは少しちがうことも言ってみたいものだとずっと思っていた。でも、けっきょく「小過や中過がたくさんあって申し訳なかった」と付け加えることしか思いつかない。

長いこと（やっぱり長かったんだ）お世話になりました。ありがとうございました。

長岡高専のますますの発展を祈っています。



振り返って

教育研究技術支援センター 伊佐 実

昭和54年より長岡高専に勤務して30余年、この度定年を迎えることとなりました。改めて年月の過ぎ去る速さを感じます。

在職中は色々な出来事がありました。勤め始めて間もなく学生達と一緒に受けた電気工事士実技試験ではプレッシャーを感じた事を今でも覚えています。学生と放課後遅くまで懸命に行った実験。滑ったことがない留学生達と行ったスキー研修等。高専で過ごした時間その一つ一つが大切な糧、財産と思っております。

また10年前の甚大な被害をもたらした中越地震に自然の力を見せつけられた気がしました。しかし、多くの方々の協力のもと学びの舎は復興し、学生達は当時一時的にも学びの中断を余儀なくされましたが、彼等はきっと何かを得たと思います。

そして東日本大震災！如何許りかと心が痛みます。人間の英知を信じ一刻も早い復興を願ってやみません。

私も再びスタートラインに立ち高専で得た知識、経験を生かし歩んで行きたいと思えます。皆様には大変お世話になり感謝しております。皆様のご健勝と長岡高専の益々のご発展を祈念致しております。

佐藤國雄先生を偲んで

昨年の秋に、第二体育館脇から悠久山公園側へ繋がる急坂の下り口に太さ10cm程の木が植えられました。みなさんご存知でしょうか。これは本校の元教授である佐藤國雄先生を偲んで植えられたヤマボウシの木です。

佐藤國雄先生は平成20年の8月に山岳部の引率中に長野県の白馬岳付近で遭難されました。長野県の山岳救助隊や警察による必死の捜索にも関わらず手がかりはまったくありませんでした。その後、山岳部OBや教職員でも捜索を行いました、やはり遺留品は見つかりませんでした。

佐藤國雄先生は本校の機械工学科の第一回卒業生です。数年間の会社勤めを経験してから開設して間もない土木工学科で助手として教員生活をスタートされました。当時の土木工学科の学生にとって佐藤先生はまさに兄貴分であり、多くの学生に慕われていました。その後、亡くなる62歳まで、学生時代を含めるとほぼ半世紀も長岡高専に通われたことになります。

佐藤先生は穏やかな性格で、学生を大声で怒ったり、前に立って学生を引っ張っていくタイプの方ではありませんでした。いつも学生の傍らにいてニコニコと見守っている先生でした。それでも多くの優秀な学生が佐藤先生の下から飛び立ちました。「学校は、教員は、学生を育てるということを最優先に考えるべき」、佐藤先生はよくこの言葉を話されました。

佐藤先生は懐の深い先生でした。多くの趣味をお持ちで、幅広い交友関係がありました。研究熱心で凝り性でいずれの趣味も人並み以上の腕前でした。私はこれまで素晴らしい研究者や社会で活躍されている方々と接してきました。一方、佐藤先生はこれといった研究業績も社会に残るような輝かしい足跡もありません。しかし、私は佐藤先生ほど人間的に魅力的な人を知りません。今でも佐藤先生のことを思い出すと鼻がしらがツンツときます。これは私だけでなく、多くの土木工学科OB、山岳部OBや教職員が感じている感情だと思います。

ヤマボウシの脇にもう一本細い木が植えてあります。なんの木でしょう。是非、見に行ってください。

（環境都市工学科 荒木信夫）



卒業生・修了生表彰

独立行政法人国立高等専門学校機構学生表彰

電子機械システム工学専攻 品田 貴裕

長岡高専の学則に定める賞

(学科)

特別表彰	物質工学科	徳山 遥香
功労賞	物質工学科 環境都市工学科	徳山 遥香 菊池 都
精励賞	電気電子システム工学科 環境都市工学科 環境都市工学科 環境都市工学科	杉山 剛志 高橋 将人 QUAH BIN WEI WONG KAR YEE
皆勤賞	機械工学科 機械工学科 機械工学科 電気電子システム工学科 電子制御工学科 電子制御工学科 物質工学科	石津 慎 南雲 光大 平山 健太 佐藤 拓哉 清水 大 仲野 友規 丸山 凌平

(専攻科)

特別表彰	電子機械システム工学専攻 物質工学専攻	山崎 拓 栗飯原直也
------	------------------------	---------------

各種学会賞等

日本機械学会 畠山賞

機械工学科 加藤 郁弥

第 23 回電気学会東京支部新潟支所 研究発表会 優秀発表賞

電子制御工学科 五十嵐裕也

平成 25 年度 日本化学会関東支部 新潟地域研究発表会 ポスターデザイン賞

物質工学科 金井 綾香

第 3 回高専 -TUT 太陽電池合同シンポジウム 優秀口頭発表賞

物質工学科 金井 綾香

日本化学会関東支部 支部長賞

物質工学科 徳山 遥香
物質工学科 KU AZZUIN BINTI KU AZMI

全国高専土木工学会 近藤賞

環境都市工学科 黒崎 泰世

IEEE Shin-etsu Section Young Researcher Presentation Award

電子機械システム工学専攻 土田 祐介

電子情報通信学会信越支部 学生奨励賞

電子機械システム工学専攻 品田 貴裕
電子機械システム工学専攻 中澤 拓史

第 47 回 地盤工学研究発表会 優秀論文発表者賞

環境都市工学専攻 荒川 涼

平成 25 年度 土木学会土木工学研究発表会 優秀講演賞

環境都市工学専攻 板場 建太

同窓会長賞

陸上競技部	機械工学科 物質工学科	前田 一樹 高山しおり
バスケットボール部	機械工学科	梶原 悟
柔道部	電気電子システム工学科	清水 隆史
バドミントン部	物質工学科	金井 綾香
水泳部	電気電子システム工学科 物質工学科 物質工学科 物質工学科	南 裕也 川津 風花 出雲崎文菜 徳山 遥香
英語部	機械工学科	吉原 啓太

進路状況

学科

学科名	区分	卒業生数	進学者数	就職者数		その他
				県内	県外	
機械工学科		42	23	5	11	4
電気電子システム工学科		35	20	5	10	0
電子制御工学科		41	38	1	2	0
物質工学科		44	36	1	6	1
環境都市工学科		38	26	3	8	1
計		200	143	15	37	6

専攻科

専攻名	区分	修了者数	進学者数	就職者数		その他
				県内	県外	
電子機械システム工学専攻		15	5	6	4	0
物質工学専攻		4	3	1	0	0
環境都市工学専攻		9	3	2	4	0
計		28	11	9	8	0



専攻科特別研究発表会

平成 26 年 1 月 24 日(金)にアオーレ長岡で 3 専攻の平成 25 年度特別研究発表会および特別研究中間発表会が開催されました。参加者は学生、教職員そして技術協力会の方々等の約 200 名が参加し、研究の成果の発表とそれに対する活発な質疑応答が行われました。その後、ホテルニューオータニに場所を移して、表彰式と懇親会が行われました。



特別研究発表までの1年間

物質工学専攻 1 年 水内 敬太

昨年度パストラル長岡で先輩が発表する姿を見て、来年は自分が発表する番だと感じてからあっという間に 1 年が過ぎ、ついに自分の番となりました。

専攻科 1 年では多くの授業を受けなくてはならない上に、研究の方でも結果を出していく必要があり大変でした。しかしながら、研究の方ではなかなか結果が出ずに、苦労しましたし、さらに授業で出される課題もこなしていかななくてはならず夜遅く帰宅する日が増えてきました。一方で本科 5 年次よりも充実した日々を送れ、今までの高専生活の中で一番自分を伸ばすことが出来る時期だったと思います。

本年度の専攻科研究発表会はアオーレ長岡にて行われ、発表当日のポスター発表では専攻とする学科ではない先生方からの質問もあり新たな刺激を受け、今後の研究への励みとなりました。

あと一年しか高専で過ごす時間がないので、研究も授業も全力で取り組み、自身の進路に生かしたいと思っています。



特別研究発表会を終えて

電子機械システム工学専攻 1 年 古川 貴仁

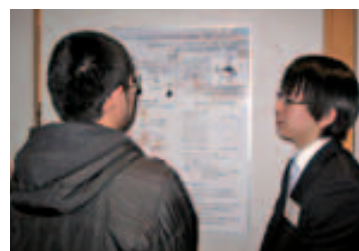
1 月 24 日にアオーレ長岡にて専攻科特別研究発表会が行われました。普段あまり知ることがない他研究室の研究内容を知ることができとても新鮮でした。

新鮮でした。

専攻科 2 年生は 10 分間の口頭発表を行いました。私が行っている研究と直接関連する部分はほとんどありませんでしたが、発表の流れやスライドの見せ方など参考になる部分が多くあり、とても興味深く聴くことができました。

その後専攻科 1 年生のポスターセッションが行われました。先生方や学生から様々な意見、質問、指摘をいただき、現状の問題点や今後の予定などを再確認することができました。

今後、進路決定のために忙しくなるかと思いますが、残りの 1 年間悔いの残らないよう過ごしていきたいと思っています。



特別研究発表会の感想

環境都市工学専攻 2 年 金子 生樹

特別研究発表会には多くの方が参加していただき、普段係ることのない研究分野の先生や専攻科生、技術協力会の皆様から大変参考になる意見

をいただき、有意義な討議ができたと感じています。また、他分野の専攻科生の発表は新鮮であり、勉強になることが多くありました。自身の研究発表では、満足のいくものとはならず、本科 4 年生時から継続してきた卒業研究・特別研究の集大成を 10 分で誰にでも分かり易く伝えることの難しさを改めて痛感し、プレゼンテーション能力の向上には、更なる努力の必要性を感じました。また、特別研究発表のはじめのあいさつで環境都市工学科の学科長である荒木先生が自信を持って発表をしてくださいとおっしゃっていました。他の専攻科生の発表を見ていて、

自信を持って発表している人はかっこよく見えました。私はそうではなかったと思います。恥ずかしながら未だに学ぶことの多い特別研究発表会でした。



高専シンポジウム in 久留米

平成 26 年 1 月 25 日(土)に久留米工業高等専門学校で開催された第 19 回高専シンポジウムにおいて、本校専攻科学生 6 名が研究発表を行いました。今回は、前日が専攻科の特別研究発表会だったため、本校からの参加者は教員と学生合わせて 9 名と少なかったのですが、全体としては年々規模が大きくなっていて、長岡で開催した第 11 回での口頭発表 173 件に対して、今回は口頭発表 306 件、ポスター発表 189 件の合計 495 件もの発表があり、その発展ぶりに驚きました。また、発表内容もレベルアップしているように感じました。次回は函館で開催されます。

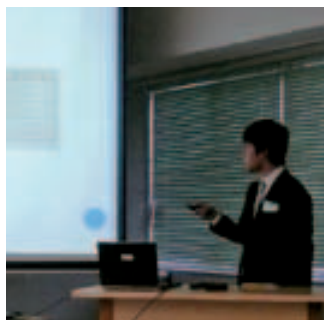
(電子制御工学科 准教授 竹部啓輔)



高専シンポジウムを終えて

電子機械システム工学専攻 1 年 古田島 裕斗

私は今回久留米高専へ行き、高専シンポジウムにて昨年度の卒業研究のテーマである「英語多読教育支援システムの構築」について共同開発を行った 3 人と共に発表を行いました。前日に特別研究の中間発表があったため事前準備をそちらと平行して進め、また当日朝に出発し到着後少しの時間を置いてすぐ発表といささか慌ただしくなっていました。しかし、普段お会いすることのない他高専の学生や教員の方から発表に対する意見をいただいたり、他高専の様子を聞くことができたりと、苦労した分多くのものを得られたと思います。特に私は長岡高専外で研究発表をしたことがなかったため、今回の発表はとても良い経験となりました。時間がなかったため特別講演や一般公開の企画を見られなかったことは少し残念ですが、十分有意義な時間を過ごせたと思います。



第 3 回 ISTS2013

平成 25 年 11 月 20 日～22 日に、香港の Institute of Vocational Education (IVE) / the Vocational Training Council (VTC) において、第 3 回 ISTS2013 (3rd International Symposium on Technology for Sustainability) が開催されました。ISTS は、海外の包括交流協定校と共催し、「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術」をテーマに、国際的な雰囲気の中で高専学生(主として専攻科生)に英語による研究成果を発表する機会を提供し、英語コミュニケーション能力の向上と国際感覚の涵養に貢献することを目的に、平成 23 年度から実施している学生主体の国際シンポジウムです。本校からは、電子機械システム工学専攻 2 年生の高橋克哉君と猪俣光生君が参加し、それぞれ有機 EL 素子及び Piezo 素子に関する研究内容を口頭で発表しました。今回は例年を上回る論文投稿件数となり講演採択率は決して高くありませんでしたが、両名とも見事採択され初めての国際シンポジウムで自身の研究成果を英語で堂々と報告し、質疑にも応答していました。



ISTS2013 in Hong Kongに参加して

電子機械システム工学専攻 2 年 高橋 克哉

私は平成 25 年 11 月 20～22 日に開催された ISTS に参加し、「Improvement in the Roll-Off Property by Reducing Carrier Accumulation between Organic Layers in an OLED」という題目で口頭発表を行ってきました。英語での発表であったため、指導教員である皆川先生や研究室の仲間に協力して頂き、何度も発表練習を行いました。

発表本番では、緊張してしまい頭が真っ白になる場面もありましたが、無事に発表を終えることができました。しかし、質問では上手く答えることができず、英語で受け答えすることの難しさと英語力に乏しい自分への悔しさを感じました。

発表後は、観光や現地の美味しい食事を楽しむことができました。このような、外国の文化に触れることや国際的な場で研究発表するという貴重な経験は、今後の人生を歩むうえで大きな財産になると思います。後輩の皆さんも海外での研究発表に積極的に参加されてはいいかでしょうか。



TOPICS

■ クラスマッチ

12月18日(水)にクラスマッチが行われました。フットサル、ドッジボール、バレーボール、バスケットボール、大縄跳びの5種目が行われ、各クラス・専攻科生・教職員が熱戦を繰り広げました。



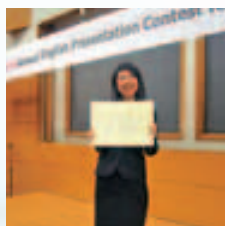
■ 化学インターハイ三連覇

12月14日(土)・15日(日)の2日間に渡り新潟大学を会場として開催された第3回新潟県化学インターハイに参加しました。この大会は高校化学の最高峰に挑む場を提供し、全国高校化学グランプリへの参加者の増加、ひいては国際化学オリンピックの代表、金メダルの獲得を目指す生徒を育成する事を目的として開催され、筆記試験、基本・中級・上級実験の各種目で争われます。今回は過去最多12校計28チームが参加し、混戦となる中で本校は見事三連覇を果たし、学生の皆さんは日頃の学校での学習、実験の成果をいかに発揮してくれました。主な成績は、最優秀高等学校・日本化学会関東支部長賞、最優秀チーム・新潟日報社賞、総合優勝・NST賞、筆記試験種目優勝で、詳細は以下のHPに記載されています(<https://sites.google.com/site/csjniigatakondankai/#14>)。



■ 関東信越地区英語弁論大会2部門優勝

11月16日(土)に関東信越地区英語弁論大会が東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパスで開催され、スピーチ部門で物質工学科5年出雲崎文菜さんが優勝、電子制御工学科3年金塚裕也さんが第三位に入賞しました。またレシーション(暗唱)部門では物質工学科2年鈴木陽介さんが優勝しました。上位大会である全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストは1月25日(土)・26日(日)に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、出雲崎文菜さんが日本国際連合協会会長賞を受賞しました。



■ 高専女子フォーラム

2013年度高専女子フォーラムin関東信越が、12月23日(月・祝)に東京の学術総合センターにて開催されました。女子学生がどんな学生生活を送り、どんな能力を身につけているかを社会へ向け発信し、女性技術者の活躍促進について企業や高専関係者がともに考える場として開催されています。今回は関東信越地区の9高専の1年生から専攻科2年生までの女子学生が27件のポスター発表をしました。本校からも研究紹介1件、学生生活紹介2件で計6名の女子学生が発表してくれました。発表者からは「ポスター発表をしたり企業の方のお話を聞いたりしたことは、自分の将来のことを考える良いきっかけになった」「相手への伝え方や答え方を習得できた」等の感想が寄せられました。



■ サイバーボランティアの委嘱

11月22日(金)に新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」で新潟県警察サイバーボランティア委嘱式が行われました。サイバーボランティアは今年度から始まった学生ボランティアで、ネット上に違法情報、有害情報を見つけたら警察に通報するサイバーパトロールや、ネットの安全・安心のための啓発活動、広報活動に協力します。委嘱式には県内各大学からボランティアに参加する学生が出席しました。長岡高専からも5名の学生がサイバーボランティアに委嘱され、その代表学生2名と電子制御工学科の竹部准教授らが出席しました。委嘱式の出席者は続いて行われた研修を受講した後、新潟駅万代広場でサイバー犯罪防止の啓発チラシを配布する広報活動を行いました。



■ 高専ロボコン2013関東甲信越地区大会

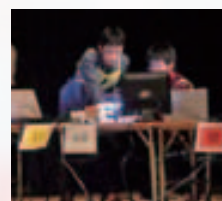
10月27日(日)にアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2013関東甲信越地区大会がBumB東京スポーツ文化館で開催されました。今大会のテーマは「Shall We Jump?」というロボットと人間が縄跳びをする競技で、縄回しロボットと人間が一緒に縄を回し、ジャンプロボットと人間がジャンプする内容でした。本校からは2チームが出場しましたが、大会成績はチームAが初戦敗退、チームBはベスト8まで駒を進めましたが全国大会出場には一歩及びませんでした。ロボティクス部は来年度の雪辱を誓い、全国大会出場を目指してがんばりますので、これからも応援よろしくお願いします。



■ 全国高等専門学校プログラミングコンテスト報告

電算機部顧問 竹部 啓輔

10月13日(日)・14日(月・祝)の2日間にわたって、旭川市民文化会館を会場に、全国高等専門学校第24回プログラミングコンテストが行われました。本校からは電算機部のEC3佐野君、川崎君、EC2山本君が競技部門に参加しました。長岡チームは、初日の第1回戦では得点できず、2日目の敗者復活戦にまわりました。プログラムの改良により、敗者復活戦は得点を3位まで伸ばし、準決勝に進出しました。準決勝は残念ながらミスがあり、12チーム中11位でしたが、これまでなかなか1回戦を突破できずにいましたので、準決勝進出は今後につながる成果ではないかと思っています。



■ デザコン2013 in 米子に参加して

デザイン部(環境都市工学科3年) 佐藤 信輔

私たちデザイン部は、11月9(土)・10日(日)の2日間に米子市で開催された全国高等専門学校デザインコンペティション(通称デザコン)に参加しました。

私自身にとって2回目の参加となるデザコンは、昨年の大会に比べてさらにレベルが高かったです。長岡高専デザイン部3年生で製作した構造デザイン部門の作品と他高専の作品を比べてみると、デザインや耐荷性能の点で、様々な創意工夫が凝らされていることがよくわかりました。このように私を含めたデザイン部の部員は、デザコンに参加してとても良い刺激を受けるとともに貴重な体験ができました。

